

報 告

第 71 号



山形大学

令和元年10月1日発行

みなぎる力が

新しい時代をまきりひらく



第六二回 桜華祭
昇華〜君のすべてを青春に！！〜



パンフレットの表紙絵

八月三十一日・九月一日の二日間にわたって、第六二回桜華祭が開催された。八月末の涼しさから一転、天候にも恵まれ夏が戻ってきたかのような暑さとなった。桜華祭テーマ「昇華」にふさわしく、キャンパスは生徒たちの笑顔と歓声で溢れかえり、文字通りの熱い二日間となった。

一日目は演劇部や吹奏楽部による公演、生徒による楽器の演奏をはじめとするフリーステージ、日大山形最強を決めるアームレスリング、そして毎年一番の盛り上がり



教室でのイベント企画



竹田悠介・逸子両氏の講演

を見せる男装女装コンテストなどが行われた。二日目は全国大会に出場した放送部の作品上映、全国優勝を果たしたダンスドリル部による公演、美声の持ち主が集うのど自慢などが行われた。二日目の最後を飾る特別文化講演会では、ゲストにイラストレーターの竹田悠介さん・逸子さんご夫妻を迎えた。悠介さんは「背景美術の魔術師」の異名を持ち、数多くのアニメ作品で美術監督を務めてきた。逸子さんは『少年ジャンプ』に連載されている漫画のキャラクターデザインを担当している。まさにアニメ・漫画制作の第一線で活躍なさっているお二人である。講演では、穏やかな語り



屋外での出店

口のなかにも、プロフェッショナルとして作品制作にかける熱い想いが感じられた。

クラスや部活動、委員会による企画では、お腹だけではなく心も満たす出店やカフェ、趣向を凝らした教室展示の数々が桜華祭を盛り上げた。また、付属学校間交流物産展や、保護者会による串焼きの販売も行われた。一度きりの高校生活、一度きりの青春。生徒一人一人の想いが創りあげた今年の桜華祭。皆の記憶に残る二日間となった。

- ステージ発表の文化部
演劇部・吹奏楽部・放送部・ダンスドリル部
- 教室での発表の文化部
生物部・英会話部・美術部・書道部・音楽部・写真部
囲碁将棋部・漫画部・JRC部
- 体育館でのイベント
特別文化講演会(竹田悠介さん・逸子さん)・フリーステージ
アームレスリング・男装女装コンテスト・のど自慢
- 教室でのイベント企画
日大付属高校間交流物産展・図書委員会古本市
お化け屋敷・入試相談・各クラスの展示やカフェ
- 屋外の出店
保護者会・女子テニス部・女子ハンドボール部
ダンスドリル部・応援団・各クラス
- その他生徒会企画
赤い糸・エヌドット募金



男装女装コンテスト



吹奏楽部の演奏



アームレスリング

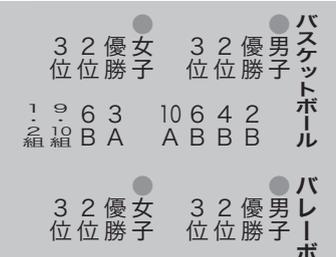
体育祭〜心を一つに〜

七月十一日・十二日の二日間にかけて体育祭が行われ、例年通り一年生は県体育館・二年生は本校体育館・三年生は山形市スポーツセンターを会場に、応援と選手が心を一つにした熱戦が繰り広げられた。



2年生

バスケットボール		バレーボール	
男子	優勝 2位 3位	男子	優勝 2位 3位
女子	優勝 2位 3位	女子	優勝 2位 3位
1組	10組	1組	10組



1年生

バスケットボール		バレーボール	
男子	優勝 2位 3位	男子	優勝 2位 3位
女子	優勝 2位 3位	女子	優勝 2位 3位
1組	10組	1組	10組

3年生

バスケットボール		バレーボール	
男子	優勝 2位 3位	男子	優勝 2位 3位
女子	優勝 2位 3位	女子	優勝 2位 3位
1組	10組	1組	10組



防災講座

テーマ…災害に備える！地震災害から身を守る！
講師…日本赤十字社 山形県支部 青少年赤十字指導講師 片山款郎氏



七月十日に、地震や水害などの自然災害から身を守るために、啓発活動の一環として防災講座が行われた。地震については発生メカニズムや地震が発生したときにとるべき行動を、水害については気象庁の発表する警戒レベルに応じて避難すること、雨雲レーダーを活用して事前に危険を把握すること、山形市内のハ

ザードマップを確認して危険な場所を知ることや専門家の観点から講演していただいた。山形県沖地震が発生した直後で生徒たちの関心が高く、講話を聴いて改めて身の回りの危険を認識した生徒たちは、気持ちをしっかりと引き締め


国公立大学進学説明会

六月十五日・十八日に、

国公立大学進学説明会が開催された。それぞれ講師を招き、約一時間半にわたり説明を受けた。一年生は国公立大学の受験と学力向上について基本的な話を中心に、新しい入試制度について話があり、各学年で取り組むべき学習内容などの話を聞くことができた。二年生

は、昨年度の話に加え、大学入学共通テストにむけた新たな情報を仕入れた新たな学習習慣から理想的な学習習慣から自身の一年間の過ごし方を見直し、受験生となる覚悟を新たに示した。三年生は、これから本格的に始まる受験に向けて、この夏をどのように過ごしていくかなどアドバイスしてもらい、最後の夏に向け



て力強く一步を踏み出していった。最後まで諦めずに戦い志望校合格をつかみ取ってほしい。

生活指導講話



七月「十代の性について」 山田弥生氏

高校で学ぶことは多岐にわたる。社会で通用するマナーや、より良い人生を送るための正しい知識を身につけることも、そのうちに含まれる。本校では、外部講師を招いた生活指導講話を毎年実施している。入学後すぐに行われる「交通安全教室」、四月末の「SNSのトラブルと薬物乱用につ

いて」、七月には「十代の性について」、そして九月の「タバコの害について」である。具体的な事例を交えた説明を通して、生徒たちは身の回りに潜む危険に対する認識を深めていった。事件・事故に遭ってからでは遅すぎる。危険を回避するために日頃から注意を払い、自分の身は自分で守るという姿勢が重要だ。生徒に啓発を促す有意義な機会となった。

消費者講座

七月十六日、本校第一体育館にて、三年生を対象とした消費者講座が開かれた。講師として山形県弁護士会より細江大樹先生（樹水の森法律事務所代表弁護士）をお迎えし、「高校生のための消費者教育」をテーマにご講演

いただいた。個人情報や悪口の書き込み、マルチ商法、ブラックバイトなど、高校生であろうと加害者・被害者どちらにも成り得る可能性はある。そのようなときのため、普段から心構えを留意しておくことが肝要だ。また、ネットやスマホのゲーム依存症も問題となっており、二〇一八年には、WHOが「ゲーム障害（ゲーム依存症）」という名の精神疾患として認定したということである。ゲーム障害は未成年者が陥りやすいことなので、本校生徒もくれぐれも注意していただき



たい。最後に、「山形県消費生活センター」という、消費生活センターと地域を結ぶパイプ役のボランティアも募集しているというので、本校生徒の積極的な参加を期待している。

海外研修報告

英語科教諭
小山 恭子

令和初と世が騒いでいた今年の夏休み、一ヶ月間学校を離れ、海外研修に行くことができた。アメリカのボストンに二週間、デンマークのコペンハーゲンに二週間滞在し、毎日が充実した日々であった。

研究テーマとしては、「外国語としての英語」。

デンマークは、デンマーク語を母国語としながら英語力が高い国だ。世界規模の英語能力統計のひとつEF 英語能力指数



コペンハーゲンのまちなかの図書館にて



ボストン公共図書館の豪華な廊下

(EF EPI) の二〇一八年版では第五位。ちなみに日本は四九位である。アメリカについては、なぜ英語を母国語とするアメリカなのかと思われるかもしれないが、外国語として英語を使う、または使わなければならない人もかなり多いのだ。建国十三州のひとつに数えられる歴史ある都市、有名大学が集まる学園都市、芸術の街……。そんな中で外国語としての英語教育、そしてその地で英語を学

ぶ人々を実際に見てきた。どちらの国でもホームステイの形態で滞在したため、人々と一緒に生活を送る中で英語を使うことができた。デンマークでは子どもが三人いる家庭で、さすがに幼稚園児には英語は通じなかったが、小学生から英語の授業が始まっているようで、英語で挨拶してくれたりしたので楽しく交流を持てた。デンマークでは大人は英語を話せて当然という雰囲気を感じた。週末遊びに来た親戚も、ランチを買ったファーストフード店、また喫茶店やジュースの上販売でも、英語で話をすることができた。アメリカで



マサチューセッツ工科大学のキャンパスを見学

は、午前中だけ英語スクールに通ったが、ここでは様々な国から様々な理由、目的で英語を懸命に学ぶ人々がいた。その中で一緒に授業を受け刺激的だった。一クラス十人程度であったが、その中で見ても相当いろいろな人がいた。出身は、コロンビア、アフリカ、サウジアラビア、スペイン、韓国、日本。目的は、「英語も話せる看護師になるために」という看護師さんや「秋から大学に通う

予定」の若い大 学教員、軍人の 学校の教員をし ている人や銀行 に勤める人、 ウェブ系の制作 会社の社員も キヤリアアップ のためにがんばっていた。長い夏期休暇を利用して叔母の家に来て勉強中の高校生もいた。 どちらの国でも感じた が、きれいな完璧な英語 を目指すというよりは、 どんどん英語を使って日 常や仕事で英語を使える ようになり、議論できる ようになることの方が重 要という認識が人々の中 にあるようだった。

午前は英語、午後は博物館や史跡を巡るといっ 日々だった。町の小さな 図書館、立派な国立図書 館も見に行くことができ たいとつくづく思う。



コペンハーゲンの街で見かけたベンチへ 「1000マイルの旅も1歩から」とある

ケンブリッジ語学研修

七月十八日〜八月四日、イギリスのケンブリッジ大学・ペンブルックカレッジにて、日本大学付属高校生のための語学研修が開催された。日本大学では毎年、全国の付属高校生を対象に「サマー・プログラム」(夏季)と「イースター・プログラム」(春季)を実施している。現地の学生だけでなく、普段交流する機会の少ない日本大学付属高校生同士の親睦も深める研修となり、生徒たちは充実した日々を過ごした。



村山さん(左)と佐藤君(右)

新しい出会い

二年十一組 佐藤 天星

(尾花沢中)

英語英語英語。。目からも耳からも英語しか入らなくなる環境というのは、覚悟していても具合が悪くなるような感じがする。そんな中、僕は十八日という時間を過ごした。

とはいえ、人間とはすごいものでこんな環境に

い。これからも何度も会うだろう。

このサマープログラムは、僕の人生に新しい出会いを与えてくれ、多くの可能性を見せてくれた。大げさだと思ふなら、是非このプログラムに参加してみてほしい。

英語を学ぶ

二年十一組 村山 佑月

(山形五中)

中学生の時から、海外へ留学したいと考えていた私は高校入学の際、日本大学付属高校に語学研修制度があると知り、すぐに必ず応募して参加すると決意しました。

念願のケンブリッジ大学での研修は期待していた通り、様々な場面で新たな発見と成長の連続でした。研修のメインである大学の先生方による授業は私たちが日本で受けているものとは違い、伝統的なスポーツの選手にインタビュをしてそれをまとめたプレゼンテーションをしたり、文章を流れるように読むためのアクセントのつけ方を

も適応してくる。目や耳が英語に慣れてくる。すらすらと読めるようになったり、なんでも聞こえたりはしないが、英語に對しての恐怖心とかそういういったものがなくなっていく。十八日間で僕が獲得した英語力など、この程度だ。日本に持ち帰ったこれを、どう使うかが重要なのだろう。

一方で、このサマープログラムで、一番の成果は友達ができたことだ。全国の日大生が集まり、イギリスに行くというのは、吊り橋効果というべきか、嫌でも友達ができる。三日でできる。ともにこんな経験をした友達には、結構簡単には離れない。

習ったりなど、より実践的で「使える英語」の授業であったため、「教科としての英語」の学習を苦手とする私でも、楽しくより積極的に英語と向き合うことが出来ました。

もちろん授業だけでなく、大学生のプログラムアシスタントによる英語にあふれた様々なイベントや、全国の日大付属生との楽しい街中散策、他の都市への小旅行などで、英語での交流を楽しんだり美しい伝統的な街並みを間近で体験したりと充実した一八日間を過ごしました。

このような貴重な体験ができたことに感謝し、これからの糧としていきたいです。

この研修は期待していた通り、様々な場面で新たな発見と成長の連続でした。研修のメインである大学の先生方による授業は私たちが日本で受けているものとは違い、伝統的なスポーツの選手にインタビュをしてそれをまとめたプレゼンテーションをしたり、文章を流れるように読むためのアクセントのつけ方を



前列中央が村山さん

令和元年度
日本大学
付属高校生
サミット

改元後初の日本大学付属高校生サミットが、八月一日から三日まで、長野県軽井沢町にある日本大学軽井沢研修所で開催された。本校からは二年生の生徒会総務員である、高野史菜さん・菊地遥介君・藤田恭大君の三名が参加した。この行事は日本全国にある二十六校の付属高校・準付属高校・特別付属高校の生徒会役員・生徒が一堂に会し、各校の情報交換・共通認識の深化・企画の具現化を目指すものである。

今年度のテーマは「いじめ問題について」。参加生徒を複数のグループに分け意見の交換を行い、考えを発表した。共同声明の発表は十一月下旬に日本大学本部で開催の「NU祭総合閉会式」の際に行われる。

参加者は「限られた時間ではあったが、深い交流ができ、充実した三日間を送ることができた」と満足した表情で語った。同じ年代の生徒のいろいろな考えに触れたことは、リーダーとして成長の具現化を図る中で有意義な研修となった。今後の本校生徒会を担う、新たなリーダーとなるよう心から期待したい。

令和元年度
特待生
奨学生
決定

日本大学付属高等学校
特待生

- 須貝 祐也(上山南中)
- 柴田美夢菜(東根一中)
- 黒沼 南帆(大石田中)
- 南幅 大空(山大附中)

日本大学山形高等学校
奨学生

- 木村 百葉(上山南中)
- 結城 一路(山形一中)
- 荒井 斗希(山形四中)
- 佐藤 実瑠(山形三中)
- 渡部 真悠(天童四中)
- 阿部 有希(山形一中)
- 藤田 恭大(神町中)
- 佐々木 巖(山形六中)
- 土屋 実優(天童四中)
- 小林 杏(山形四中)
- 仁藤 梢太(山形一中)
- 齋藤 瑞(山形一中)
- 日本大学山形高等学校
コカ・コーラ育英奨学生
- 早坂 えり(山形一中)
- 菊地 孝太(金井中)
- 阿部 真珠(酒田東部中)
- 後藤 大和(金井中)
- 井上 晴登(山形六中)
- 柏倉 瑠翔(尾花沢中)

学校説明会

全体説明と個別相談・校舎見学・部活動見学

期日	会場 第一体育館
第1回 令和元年10月6日(日)	日程
第2回 10月20日(日)	受付 9:20~ 9:55 説明会 10:00~11:20
第3回 11月17日(日)	以下は希望になります。
第4回 11月23日(土・祝)	個別相談 11:20~ 校舎見学 11:20~12:00(予定) 部活動見学 11:20~12:10(予定)
第5回 12月14日(土)	

※上記以外の期日に学校参観を希望なさる方は、お電話の上ご来校ください。
※部活動見学については、学校説明会前にお問い合わせください。
(023-641-6631 担当/橋本・田中)

※学校説明会では、学校生活全般、並びに入試に関する詳しい説明をいたします。
※事前のお申し込みは必要ありません。上履きをご持参ください。

第21回 桜華同窓会総会・懇親会開催

令和元年7月6日、パレスグランデールにて558名の参加者たちが交流を深めた。



ドンキー佐藤氏(卒業生)の司会と、大道芸人のポッキーマサ氏(卒業生)によるパフォーマンスで大いに盛り上がり、恩師や旧友と語り、終始和やかで有意義な楽しい会であった。

◆本校ホームページに桜華同窓会 Facebook のリンクがありますので、是非ご覧ください。

フオト・ア・ラ・カイト



応援練習 一致団結



花壇の苗植え 石山カメラ様より



体育祭 一喜一憂



国立大学合格をめざして



体育祭 祈りとどけ



桜華祭 いざ勝負

日本大学山形高等学校広報部
〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘四一五五
電話 〇二三一六四一―一六六三二(代)
FAX 〇二三一六四一―一六六三四
URL <http://www.yngt.h.s.nihon-u.ac.jp>
印刷 (株)大風印刷
写真提供 (有)カメラの石山



野球応援 喜びを共に



桜華祭 僕らのすべてを青春に

二〇二四年に日本の紙幣が全面刷新される。一万円札の新しい顔に選ばれた渋沢栄一、どんな人物か知らない人も多いのではないだろうか。明治政府に仕えた後、五百もの会社の設立に関わり「日本資本主義の父」とも呼ばれた人物だ。彼がそう呼ばれたには理由がある。それは、資材を貯め込むよりも「公益」を第一に考えていたことだ。彼は自分の利益だけではなく、世の中の全ての人のことを考えていた。これは、機械化が進み「心」を感じる機会が減ってきている今の世の中において最も必要とされる「仁」の心ではないだろうか。誰だって人間は自分を大好きで、自分の感情を優先してしまう。他者を思いやることで、やがてそれが結果的には自分の為になることになかなか気が付くことができない。五年後の二〇二四年には今以上に機械化が進み、便利な商品があふれているだろう。新しい商品を購入するとき、新しい一万円札を見て、もう一度「仁」の心の大切さを思い出し出してほしい。この新しい一万円札にはそんなメッセージが込められている気がしてならない。

編集後記